

## 2014年10月19日(日)「弦楽四重奏クラシックコンサート」

恒例となりました秋の演奏会、今年はクアルテット・セレスシアの方々に出演していただきました。セレスシアとはラテン語で「桜」を意味し、クアルテット結成の地、上野の桜木に由来するそうです。当日の演目は、

モーツァルト：アイネクライネナハトムジーク第1楽章

ハイドン：弦楽四重奏曲 第32番 op. 33-3「鳥」第1楽章

ハイドン：弦楽四重奏曲 第77番 op. 76-3「皇帝」第2楽章

J. シュトラウス：ピッチカート・ポルカ

シューベルト：弦楽四重奏曲 第12番「四重奏断章」

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲 第1番 op. 18-1

の6作品です。いずれも本格的な弦楽四重奏の楽曲をお楽しみいただいた後、日本の秋の童謡メドレーのアンコールに感動されて思わず涙ぐむ方もいらっしゃいました。



会場は演奏者と客席の距離が近く、生演奏の迫力と繊細表現を存分に感じていただけたのではないのでしょうか。



演奏の前には（クアルテット・セロシアから）楽曲の解説もあり、「説明があると聞きやすい」とのご意見もいただき、より深く演奏を楽しむことができました。

迫力の演奏に、「CDでは味わえない臨場感があり、良かった」との感想も寄せられ、好評をいただきました。



会場には作曲家の伝記から楽曲の楽しみ方まで、音楽に関する本を集めました。図書館の本の展示は、多くの方に手に取っていただきました。